

# 人間ドック 充実コース の検査項目

緑色の枠内は当センターの人間ドックに追加した検査項目です。

医師診察	視診、聴診、触診などにより健康状態の診察をします。
<b>身体計測</b>	
BMI	体重/(身長×身長) (kg/m <sup>2</sup> )で計算される肥満の指標です。25以上は肥満と判定されます。
内臓脂肪の測定	低線量CTにより、内臓脂肪面積を推定します。(平成28年4月から測定法が変更になりました)
メタボリックシンドローム判定	腹囲、脂質、血圧、空腹時血糖などから判定します。
<b>頭頸部の検査</b>	
頸部	
頸動脈超音波検査	頸動脈の動脈硬化の程度、狭窄の有無、プラークの有無などを超音波で診断します。
甲状腺超音波検査	甲状腺の大きさやしこりの有無を超音波で調べます。
眼	
視力検査	近視などの視力異常を調べます。
眼底検査	眼底の血管や網膜を写真撮影し、高血圧、糖尿病などによる血管変化や出血の有無を調べます。
眼圧	眼球の圧力を眼圧といい、緑内障などの診断に役立ちます。
耳	
聴力検査	難聴の有無を調べます。聴力は耳・脳の病気、騒音環境、加齢で変化します。
<b>胸部の検査</b>	
呼吸器	
呼吸機能検査	肺活量、一秒量、一秒率などを測定します。 気管支喘息、肺気腫、肺線維症などの肺や気管支の病気の診断に役立ちます。
低線量CT検査	早期の肺がんや肺気腫など肺の病気を調べます。 心臓の大きさや大動脈瘤の有無もわかります。
喀痰細胞診検査	痰の中にがん細胞が混じっていないか調べます。
循環器	
心電図	高血圧性心肥大、動脈硬化などによる虚血性変化、不整脈の有無を調べます。
血圧	高い場合は、脳卒中、心臓病、血管疾患などの危険が高くなります。
心臓超音波検査	心臓の形や機能を調べます。心肥大、心筋梗塞、心臓弁膜症などの程度を判定します。
乳腺(女性のみ)	
視触診	乳房のしこり(腫瘤)の有無を診察します。
マンモグラフィ	乳房専用のレントゲン検査です。乳がんの早期発見に役立ちます。
乳腺超音波検査	良性疾患や乳がんの有無を調べます。
<b>腹部の検査</b>	
食道・胃・十二指腸 (内視鏡あるいはX線検査のいずれかを選んでいただけます)	
内視鏡検査	消化管の内側から粘膜を直接観察し、食道、胃、十二指腸の病気を調べます。
X線検査	食道、胃、十二指腸のがんや潰瘍、ポリープなどの有無を調べます。
肝・胆・膵・腎・膀胱	
腹部超音波検査	腹部の臓器の形や内部構造の変化から、肝臓、腎臓などがんや良性腫瘍、ポリープ、結石、のう胞、脂肪肝の有無などを調べます。
大腸	
便潜血検査	腸からの微量の出血を調べます。 陽性なら大腸のポリープやがんの可能性があるので内視鏡検査が必要です。
<b>子宮・卵巣の検査 (女性のみ)</b>	
婦人科診察	下腹部のしこりの有無などを診察します。
子宮頸部擦過細胞診	子宮の入り口の細胞を採取し、顕微鏡で子宮頸がんの有無を調べます。
経膣超音波検査	子宮の形態異常、筋腫の有無、卵巣の状況などを観察します。
<b>骨密度の検査</b>	
超音波骨密度検査	骨粗しょう症の診断をします。

尿検査	
尿蛋白	主に腎臓障害の指標です。運動後や起立性に出現する場合があります。
尿糖	糖尿病や腎性糖尿で出現します。
尿潜血	主に膀胱や腎臓の病気で出現します。過度の運動により出現する場合があります。
尿細胞診	尿中にがん細胞が見られないか調べます。膀胱がんなどの検査です。
血液検査	
血液一般	
赤血球数	貧血や多血症の指標です。
ヘモグロビン	赤血球に含まれる血色素の量です。鉄分不足で低くなることもあります。
ヘマトクリット	貧血や多血症の指標です。
MCV、MCH、MCHC	貧血の種類を鑑別する指標です。
白血球数	炎症や喫煙で高くなります。
血小板数	少なすぎると出血しやすくなり、多い場合ば血栓の原因となることもあります。
炎症反応	
CRP	炎症などにより高値になります。
RF (リウマチ因子)	主にリウマチ性疾患、膠原病などで高くなります。
肝臓	
AST (GOT)	主に肝臓の病気で高くなります。
ALT (GPT)	主に肝臓の病気で高くなります
LDH	肝臓や筋肉の障害、心疾患、血液疾患などで高くなります。
γ-GTP	肝臓や胆道の病気、アルコール性肝障害で高くなります。
総蛋白	栄養状態や全身状態を反映する指標です。
アルブミン	栄養状態や全身状態を反映する指標です。血液中の総蛋白のうち約50%を占めます。
A/G比	アルブミンとグロブリンの比です。
総ビリルビン	肝臓や胆道の病気で高くなり、黄疸の指標になります。
ALP	肝臓や胆嚢の病気、骨や内分泌の病気で高くなります。
FIB-4インデックス	肝臓の線維化を推定する指標です。年齢、血小板数、ALT、ASTから計算で求めます。
肝炎ウイルス	
HBs抗原	B型肝炎ウイルスに感染しているかどうかを調べる検査です。
HCV抗体	C型肝炎ウイルスに感染しているかどうかを調べる検査です。
脂質	
総コレステロール	余分に摂ると動脈の壁の中に沈着し、動脈硬化を起こします。高すぎると狭心症、心筋梗塞などの動脈硬化性疾患の危険が、低すぎると脳出血の危険が高くなります。
HDLコレステロール	”善玉コレステロール”と呼ばれています。動脈壁に沈着したコレステロールを再び血液中に戻す作用があります。低すぎると狭心症、心筋梗塞などの動脈硬化性疾患の危険が高くなります。
LDLコレステロール	”悪玉コレステロール”と呼ばれています。高すぎると狭心症、心筋梗塞などの動脈硬化性疾患の危険が高くなります。
中性脂肪 (トリグリセライド)	高すぎると動脈硬化、脂肪肝、膵炎などの危険が高くなります。
糖代謝	
空腹時血糖	糖尿病の指標です。
HbA1c	糖尿病の指標です。最近1~2カ月間の血糖のコントロールを反映します。
空腹時IRI	血糖値を下げる働きをするインスリンホルモンの数値です。
HOMA-IR	空腹時の血糖値とインスリン値から算出されるインスリン抵抗性を示す指数です。

<b>痛風の検査</b>	
尿酸	プリン体の多い食品をたくさん摂ると高くなります。尿酸が高くなると関節に沈着して炎症をおこすため痛風発作が見られ、さらに進むと腎障害をおこすこともあります。
<b>腎機能</b>	
尿素窒素	腎機能低下で高くなります。食事などの影響で高くなることもあります。
クレアチニン	腎機能低下で高くなります。
eGFR	年齢と性別を加味した腎機能を示す指標です。
<b>電解質</b>	
Na (ナトリウム)	腎臓の機能などの異常を調べます。
K (カリウム)	
Cl (クロール)	
Ca (カルシウム)	
<b>膵酵素</b>	
膵型アミラーゼ	膵炎など膵臓の病気についての検査です。
エラスターゼ1	膵炎など膵臓の病気についての検査です。膵がんで高くなることもあります。
<b>甲状腺機能</b>	
FT4	甲状腺ホルモンの値です。甲状腺機能低下症で低く、機能亢進症で高くなります。
TSH	甲状腺刺激ホルモンの値です。甲状腺機能低下症で高く、機能亢進症で低くなります。
<b>胃がんリスク</b>	
ヘリコバクター・ピロリ抗体	胃や十二指腸の潰瘍、胃炎、胃がんの原因となると言われているピロリ菌に感染したことがあるかどうかを調べます。
ペプシノゲン	胃粘膜の萎縮の程度などを示します。
<b>腫瘍マーカー</b>	
CEA	主に消化器系のがん、一部の肺がんなどで高値を示します。喫煙者やアルコール常飲者・高齢者などで高値を示すこともあります。
CA19-9	主に膵臓がん、胆のう、胆管がんで高値を示します。膵炎、胆管炎などで高値を示す場合や、肺がんや子宮がんなどで高値となることもあります。
AFP	主に肝臓がんで高値を示します。肝炎や肝硬変でも高値を示すことがあります。
PSA (男性のみ)	主に前立腺がんで高値を示します。
CA125 (女性のみ)	主に卵巣がん、子宮内膜症などで高値を示します。

<b>後 日</b>	
健診結果の説明	担当医師が健診結果および追加検査や治療の必要性などについて説明します。必要に応じて、医療機関への紹介状を書かせていただきます。
生活アドバイス	健診の結果や問診票に基づいて、より健康的な生活を送っていただくためのアドバイスを管理栄養士あるいは保健師が行います。